

64-(1)、64-(2)



空港の耐災害性強化対策(護岸嵩上げ・排水機能強化による浸水対策、滑走路等の耐震対策)【国土交通省】

施策概要

浸水防止のための空港の護岸の嵩上げや排水機能の強化、地震被害防止のための滑走路等の耐震対策を実施

効果

高潮・高波・豪雨等による空港施設の浸水被害や地震による施設被害を防止し、救急・救命活動等の拠点機能の確保や航空ネットワークの維持に寄与

全国的な対策と効果

対策1 全国の空港のうちネットワークの拠点となる23空港に対し、護岸の嵩上げや排水機能の強化を実施

既存護岸の嵩上げ



排水機能の強化



対策を実施しない場合の被害イメージ



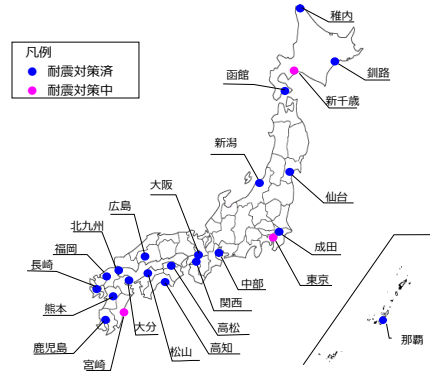
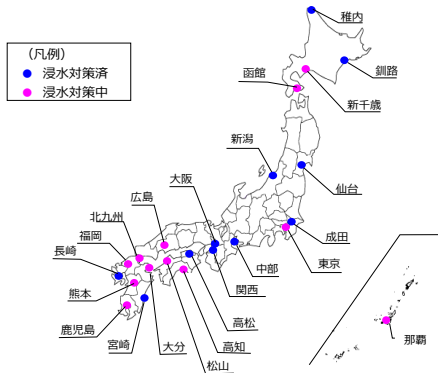
大雨により着陸帯が冠水

対策2 全国の空港のうちネットワークの拠点となる23空港に対し、滑走路等の耐震対策を実施

⇒ 内容は右ページ参照

浸水対策の実施状況(令和7年3月末現在)

耐震対策の実施状況(令和7年3月末現在)

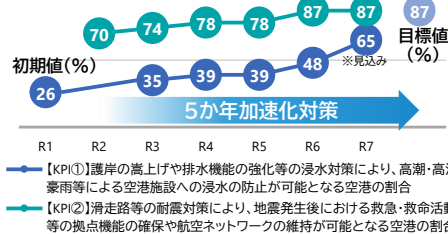


予算額(国費)(加速化・深化分)

R3	R4	R5
-	-	-
R6	R7	累計
-	-	-

※ 加速化・深化分は措置されていないが、空港整備については、自動車安全特別会計空港整備勘定において、必要な対策を実施

目標達成の見通し



【KPI①】護岸の嵩上げや排水機能の強化等の浸水対策により、高潮・高波・豪雨等による空港施設への浸水の防止が可能となる空港の割合
【KPI②】滑走路等の耐震対策により、地震発生後における救急・救命活動等の拠点機能の確保や航空ネットワークの維持が可能となる空港の割合

効果発揮事例

新潟空港の着陸帯及び排水施設の改良により、滞水・冠水被害を防止する



国土交通省 北陸地方整備局
新潟港湾・空港整備事務所

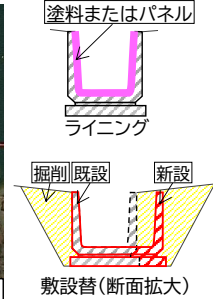
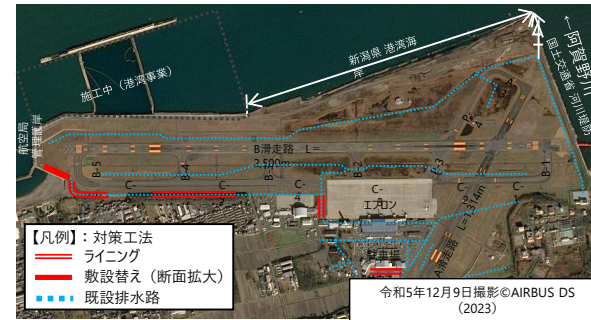


新潟県新潟市



新潟空港の浸水対策

着陸帯・排水施設の改良



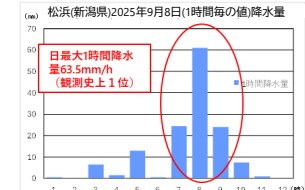
事業費

13億円(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)-億円)

※空港整備については、自動車安全特別会計空港整備勘定において、必要な対策を実施している。

事業の背景(地域の課題)

近年の気象の変化や長期的な気候変動により豪雨等が激甚化・頻発化していることに加え、新潟空港は海岸部かつ河川の河口部に位置し、空港周辺は低地であるため津波、河川氾濫、大雨時に新潟市内の大部分と共に浸水することが想定されており、浸水により空港の運用に支障をきたすおそれがある。



日最大1時間降水量の観測史上1位を更新するなど、豪雨等が激甚化・頻発化

事業の内容

津波、河川氾濫、大雨時においても、新潟空港の滞水や冠水等を防ぎ、航空機の運航や空港利用者の安全性を確保するため、着陸帯及び排水施設の改良を実施した。



空港における豪雨による冠水被害事例(平成21年7月 福岡空港)

効果

令和7年9月8日に新潟市松浜観測所(新潟空港内)で日最大1時間降水量63.5mm/h(観測史上1位)を記録した。しかし、新潟空港では排水施設の改良により航空機の運航に影響を及ぼす滞水や冠水等の被害が生じなかったため、通常の運航を継続した。

(1) 人命・財産の被害最小化
1 激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策

(2) 交通・ライフラインの維持
2 インフラの老朽化対策

(1) 3 国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進

(2) 災害関連情報の高度化